

年頭ご挨拶

新年おめでとうございます。

平素は、本町の行政推進に、とりわけ福祉行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年4月に社団法人に移行されました精華町シルバー人材センターは、会員の皆様方のご尽力で順調に成長を続けられており、大変うれしく思っています。



町長 木村 要氏

10月にけいはんなホテルで開かれました「文化展」を参観させていただきました。

シルバー会員の芸達者ぶりに感服すると同時に、こうした文化的な催しが数多く開かれることが、地域に豊かさをもたらすものだと改めて認識させられました。

精華町は昭和30年に町制を施行して以来、昨年で50年という節目の年を迎え、11月には盛大な記念式典を開くことができました。50年間に人口は3倍以上になり、「学研都市精華町」として国内外から注目される町になりました。この発展をもたらせた先人たちのたゆまぬ努力と、国、府、関係団体のご支援に深く感謝しています。

私は「人、自然、科学を結ぶ、学研都市精華町」の建設を理念にして、「ふるさとはここ精華町」と思い続けていただけるような、まちづくりに取り組んでいく所存です。

しかしながら、町の財政事情は年々厳しさを増しています。町民生活に直結している福祉、医療、保健予算でさえ、ある程度削減せざるを得ない事情に立ち至っています。こうした中であって、高齢者があい集い、地域貢献を通じて生きがいを見出そうと、活動されているシルバー人材センターの存在は頼もしく、大変心強く感じています。町としましてもセンターの活動には出来るだけ支援していきたいと考えています。

シルバー人材センターのますますの発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたします。

風船、静岡へ飛ぶ

11月のせいか祭りで配った1000個の風船の一つがフワフワ飛んで、静岡県で精華町シルバーをPRしました。

12月8日夕刻、センター事務所に、静岡県掛川市の住民から「精華町シルバー人材センターの文字の入った風船を拾った」という電話がありました。

いつ、どんな状態で見つかったかは聞き漏らしたのですが、浜松市と静岡市の中間にある掛川市までおよそ200キロの大空を飛んで、精華町シルバーを宣伝したと聞いて職員一同びっくり。「18年はアメリカまで飛ぶ風船を……」と、事務局では早くも来年のせいか祭りの参加内容について検討しています。

